



道路鋪裝の簡易化を企つ

福岡縣は他縣に比較すると面積も廣く道路網も發達して居るが路面の鋪裝費は年々増加し何んとかして經費の節約を圖らんと坂本土木部長を初め當局者は苦心考究しておつたが之をば簡易鋪裝法で經費を最少限度に喰止めることとなり、昨年最も交通量の多い久留米及び折尾の二土木管區において試験的に實施したところ成績頗る良好なので、今後縣下道路の鋪裝には努めて同法を採用することとなり差當り明年度には縣下三十キロに亘つて同法による鋪裝をする

ことなつたこの簡易鋪裝法は厚さは僅か三ミリ程度に過ぎず、又經費も一平方米三十錢内外で普通鋪裝による十分の一で出来るので、尠からぬ經費の輕減が出来ることである、此の如き事は各府縣の土木當局でも考究し其地方に適應する方法で簡易化する様に努められたいものである。

征服論の戸惑ひ

本年六月刊行雑誌「エンジンニア」第五卷第百六十二號三六頁から五〇頁を讀むと「4道路の改良と省營自動車」と題し鐵道局運輸局自動車課長菅健次郎と署名せる一文が掲載されて居る、其の内容は一月

注
本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に涉らざる限り奇想天外的の寄稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

二十七日以降二月四日に亘り五回時事新報に連載されたものと全く同一である、而かも五月下旬四回に亘り同時事新報に「ソヴイエトの自動車列車」と題する一文を登載し其の結論に於て前回の文中にある道路管理者征服論を改訂し道路の改良方策を是正して居るのに今更「エンジンニア」誌上に再録せられたる所を見るのは不可思議千萬である、若し夫れが菅氏の寄稿に因るものとすれば同氏の心臓の強きに驚かざるを得ないのである、柔道四段の腕節と此強き心臓の持主たる菅氏に對して地方のバス經營者が悲鳴を擧ぐるのは決して理由なきことではない。併し筆者はそうは思はないので

ある。若し「エンジニア」雑誌の編輯者が一名論と思つて或は「道路の改良」對抗策としてか有心的故意に時事新報より轉載したものとすれば其の認識不足に驚かざるを得ないが或は何等の考ふる所もなく一時の思ひ付で轉載したものではなからうかそうすると時事新報よりの轉載を明かにすることとがジャーナリストとしての道徳ではなからうか何れにしても菅氏の此一文の戸惑ひに相違ないのである。此一文に付ては「道路の改良」第十八巻第四號一一頁―一七頁及同誌第十八巻第七號一一六頁―一六七頁を参照することを忘れてはならぬ。

珍計畫なる隧道會社の設立

高知縣下高知市と高岡郡高岡町をつなぐ縣道の荒倉峠は峻険で而かも迂餘曲折して交通上の一大障礙となつて居る、夫れで昔時からトンネル開鑿を企てたことも屢次であるが財政の點で今日尙實行されない、處

で關係地元の數町村が二十萬圓の資本で株式會社を設立し三萬米の荒倉トンネルを開鑿して其元利償還に當る財源としてトンネル通行料を徵收せんとする一論見であるとの事である橋錢や道路通行税を徵收した實例はあるもトンネル通行錢は其の例がないと云はれておる、併しあながち否認すべき企圖でもなからう、全國交通上の關係から道路の改良を促進しなければならぬ秋である、活眼以て許容することとして如何。

官僚は活眼を開くべし

某記者と元の法制局長金森徳次郎氏との問答中に官僚の上層部は政治的な活眼を開かなければならぬかとの間に對し大體官僚といふものは無事に勤めて行かうといふ思想が根本にある、無事に勤めるといふことは何かと言へば目星しいことをやらぬといふことです、目星しいことをやれば、それには必ず危険が伴ふ、やり損ひとか鐵縛を出すとかいふことがあり得る、夫を避ける

爲には口には色々なことを言つても慎重考慮といふ考へ方を極端に利用して何もしいといふのが官僚の陥り易い途です、その結果官僚にものを預けて置けば大きな破綻を作らないが次第々々に分らなくしてしまふ譯です、その答であつたと傳へられておる、官公吏が事勿れ主義消極主義目星しいことをやらぬと云ふのは護身法である、官公吏が何か大きな社會の喝采を博する様な仕事をすると同僚からは嫉視せらるゝ上長からは生意氣視せらるゝ甚しき事は「帝大も卒業しないで今の位地を得たとは出過ぎた奴だ瀆職の嫌疑を受くるは當然の事だ」と被告を罵つた豫審判事もあつた程だ、危きに近からざるを君子と教へられたものはよい加減に日を暮らす途に出るの外に安全はない、躍進の日本は此點からも庶政一新策として検討せねばならぬ。

街路樹は猿智恵から

某地方新聞に「大都市は文明が生んだ

沙漠だ」さういつて皮肉屋の或る詩人はベ
ーヴメンにベツとつばを吐きました、アス
ファルト舗道が果てしなく延びて日ごとに
市民から「土の香」を奪つていつたのではま
るで焼けついたトタン板の上に投げ出され
た蟻の子みために全くやれ切れません、街
路樹といふものがアフリカあたりの征服者
が持ち歸つた猿智恵か、都市學者の腦細胞
から生れたのか知らぬがチトばかり感心し
てもよいやうに思はれます」との皮肉な一
文があつた、猿智恵でも何智恵でもよい、
都會の道路に街路樹が見られなかつたなら
酷暑の歩行者などはノサレてしまふであら
う。

國民の批判を國策 選定の上にか

國策の確立は内閣の決定があつて甬めて
國民が知ることを得るものと思惟されてお
つたが近頃は某大臣はこんな國策を持ち出
すとか某大官が重大な進言を首相に呈出し

たとか丸で國策智恵
くらべを見せつけら
るゝ感があるが龜井
貫一氏は「廣田さん
は今の大眾も將來の
大眾をも知らないお
役人です。此の大眾
の力を借りないで經
濟組織の改革はその
一つでも出来ないの
です」と公言して居
るが首相黙して大官
が大眾の力を借らん
とするを諷刺して龜
井氏が斯く公言した
か夫れとも廣田氏を
歴史に背きて唯情勢
に押し流されて行く
爲政者と見ての事か
田舎者にはトントア
解し兼ねる次第であ
る。

